

1 1 地域コミュニティ現状調査報告書

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

近年、人口減少や少子高齢化の進展は著しく、人口減少対策や活力ある地域づくりに関連した市町への支援が村山総合支庁における喫緊の課題となっている。

そこで、アフターコロナにおける地域コミュニティの現状・課題の把握や、関係人口の参画による地域コミュニティ機能の維持・協働の可能性を探るため、地域コミュニティが抱える課題や関係人口に対する意識の把握を目的に、以下の調査を実施した。

※本調査における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指す。

イ 調査期間

令和5年9月25日～10月16日

ウ 調査対象

山形県東南村山管内市町における地域コミュニティ組織（自治会、町内会等）の代表者

エ 調査方法

山形県東南村山管内市町における206の地域コミュニティ組織（複数の自治会等を統括する組織を含む）の代表者に対し、調査受託者（村山総合支庁から調査業務の委託を受けた株式会社山形アドバイザー）からの郵送により調査票を配布・回収

オ 調査内容

- ・ 自分が住む地域（地区）について
- ・ 自分が住む地域の「地域コミュニティ」について
- ・ 「関係人口」と地域コミュニティについて
- ・ まとめ

※詳細については「V 参考資料1」の調査票を参照。

カ 回収結果

- ・ 回収数（率）： 148件(71.8%)
- ・ 無効数： 0件
- ・ 有効数（率）： 148件(71.8%)

キ 注意事項

○図表の中の「回答数」は、設問に対する回答者総数である。

○百分比は回答者総数全体（該当設問においては該当者数）に占める設問の選択者数の比率として算出している。なお、図表では小数点第2位をそれぞれ四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならない場合がある。

○複数回答が可能な設問の百分比の合計は、100%を超えることがある。

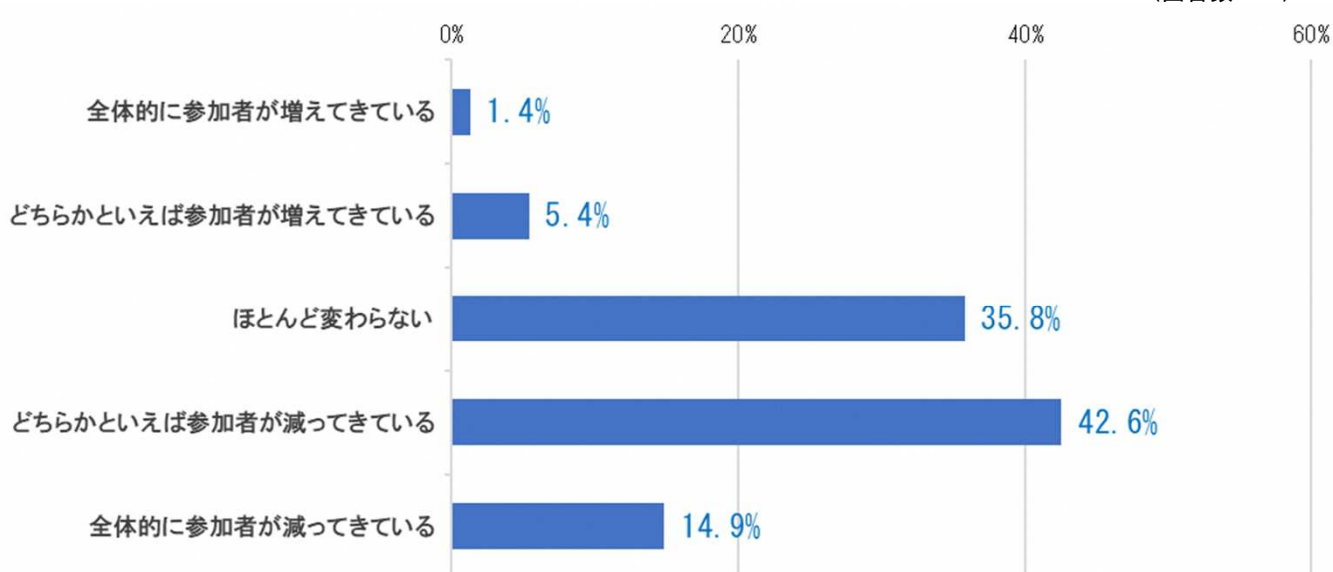
(2) 調査結果

ア 自分が住む地域（地区）について

(ア) 「地域活動への参加状況」について

問1：あなたの地域の「地域活動への参加状況」はいかがでしょう？（○は1つ）

(回答数=148)



「地域活動への参加状況」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「どちらかといえば参加者が減ってきている」……42.6%
- 2位：「ほとんど変わらない」……35.8%
- 3位：「全体的に参加者が減ってきている」……14.9%



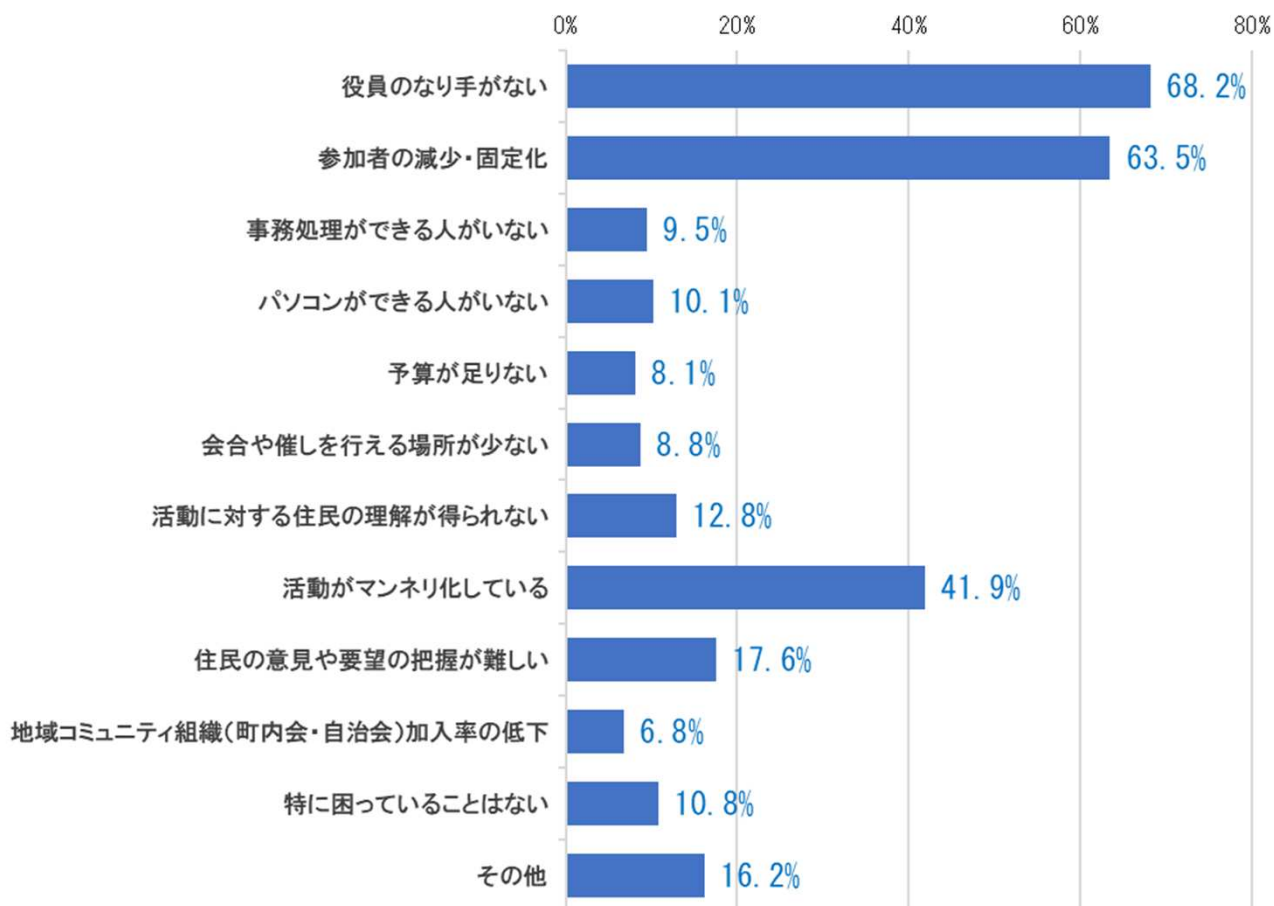
ポイント

- 地域活動への参加者が増えている地域は全体の1割弱であるのに対し、約6割の地域では参加者が減ってきている。

(イ) 地域活動を行う上での困りごとについて

問2：地域活動を行う上で、お困りになっていることはありますか。(○はいくつでも)

(回答数=148)



「地域活動を行う上での困りごと」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「役員のなり手がいない」……………68.2%
- 2位：「参加者の減少・固定化」……………63.5%
- 3位：「活動がマンネリ化している」……………41.9%
- 4位：「住民の意見や要望の把握が難しい」……………17.6%
- 5位：「その他」……………16.2%

「その他」では、「高齢化により参加者が減っている」や「新型コロナウイルス感染症の影響で事業ができなかった」などが挙げられた。

選択肢以外の困りごとの例

- ・自治会等の役員も参加者も高齢化し、役員のなり手もないし、参加者も減少
- ・無関心層が増えている（特に感じるのは若年層）
- ・新型コロナウイルスの影響で事業がストップしたり、何事も慎重な対応にならざるを得ない
- ・輪番制で役員が交代するので役員業務の把握が難しいし、無報酬なのに業務自体がそもそも多いが、共助ということで役員に対して自治体から依頼される業務も多くなってきている
- ・役員の年齢が40～50代であり、本業も多忙であることに加え、役員の職務も多忙すぎる
- ・新居住者、団地居住者の理解がなかなか得られにくい



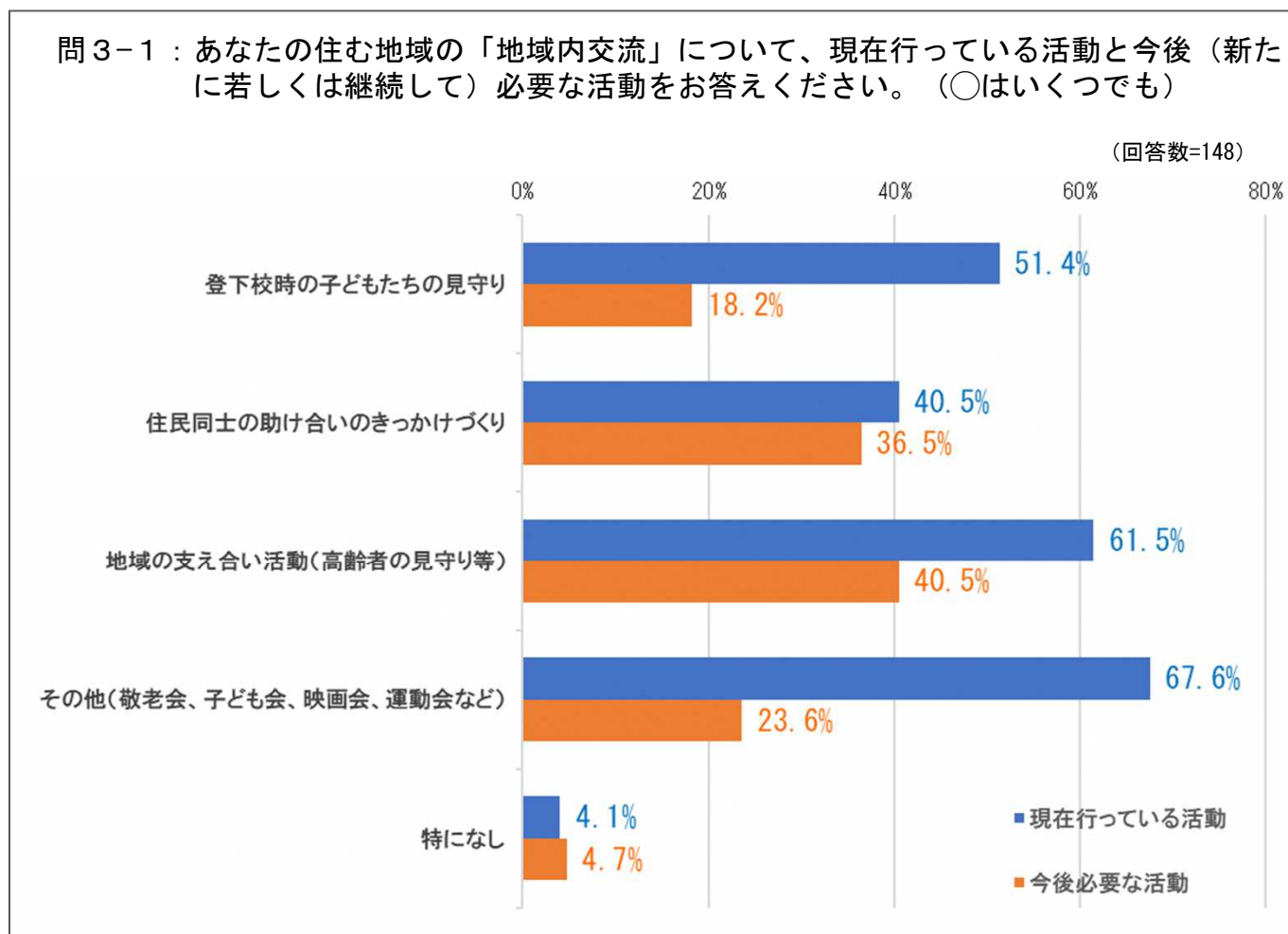
ポイント

- 人口減少や高齢化の進展により、役員の担い手不足や参加者の減少・固定化、活動内容のマンネリ化を困りごとだと感じている人の割合が多い。
- また、地域活動への関心がない住民の存在、本業と地域活動の両立の困難性や複数の役職兼務による多忙、短い任期での役員活動なども、地域活動を行うにあたっての困りごとと感じている。

イ 自分が住む地域の「地域コミュニティ」について

(ア) 地域内交流について

問3-1：あなたの住む地域の「地域内交流」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）



「地域内交流」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「その他（敬老会、子ども会、映画会、運動会など）」……………67.6%
- 2位：「地域の支え合い活動（高齢者の見守り等）」……………61.5%
- 3位：「登下校時の子どもたちの見守り」……………51.4%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域の支え合い活動（高齢者の見守り等）」……………40.5%
- 2位：「住民同士の助け合いのきっかけづくり」……………36.5%
- 3位：「その他（敬老会、子ども会、映画会、運動会など）」……………23.6%

問3-1に寄せられた主な意見（問3-2）

- ・人口減少、少子高齢化で10年後、20年後の地域の将来像が見えないし、具体的にどのように対応していけばよいのか分からない
- ・一人暮らしの高齢者が増え、把握・見守りが重要と思われるので、隣組等で支え合うような体制をつくることできれば…
- ・役員の高齢化やコロナ禍の影響により敬老会が廃止になり、高齢者の楽しみが消えてとても残念
- ・高齢者も若者も子どもも集えるような“地域食堂”のようなものがあると良いと感じる
- ・世帯数が少なく、どうしても活動が制限されるため、近隣地域と合同の事業をしてコミュニケーションを図っている
- ・様々な年齢層のニーズに合わせた活動を開発していきたい



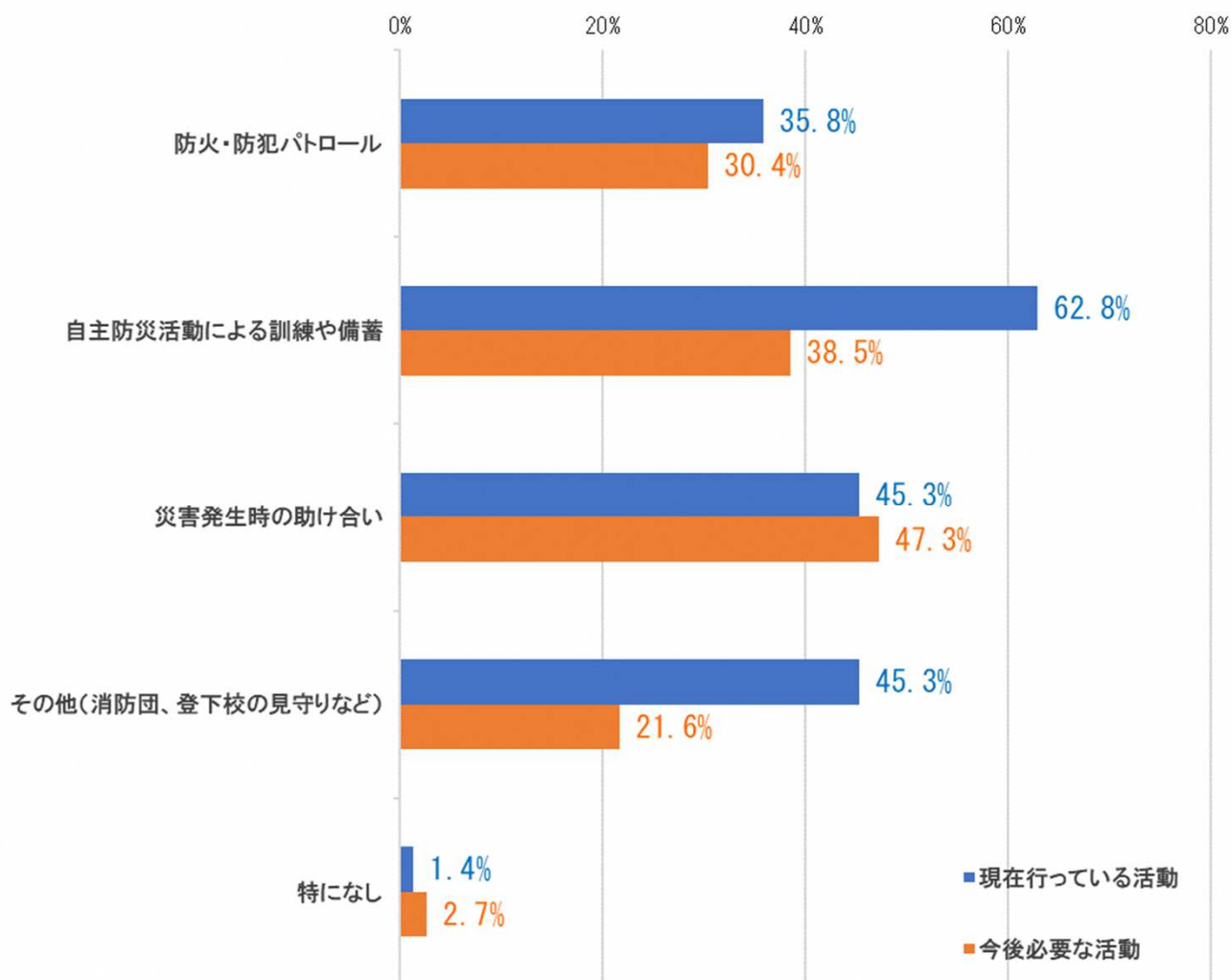
ポイント

- 現在、敬老会・子ども会や高齢者・子どもたちの見守り活動を行っている地域が多いが、少子化や役員の多忙などを背景に、将来的な必要性は低いと感じている人が多い。
- 「住民同士の助け合いのきっかけづくり」については、現在4割程度の地域コミュニティで実施されており、ほぼ同程度の割合の地域コミュニティ代表者がこれからも必要だと感じている。

(イ) 防災・防犯について

問4-1：あなたの住む地域の「防災・防犯」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）

(回答数=148)



「防災・防犯」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「自主防災活動による訓練や備蓄」……………62.8%
- 2位：「災害発生時の助け合い」……………45.3%
- 「その他（消防団、登下校の見守りなど）」……………45.3%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「災害発生時の助け合い」……………47.3%
- 2位：「自主防災活動による訓練や備蓄」……………38.5%
- 3位：「防火・防犯パトロール」……………30.4%

問4-1に寄せられた主な意見（問4-2）

- ・ 幸いなことに大きな災害は発生していないが、万が一の場合に備えて助け合いの方法を考える場・機会をもっと増やすべきではないか
- ・ 自主防災組織役員や消防団員の高齢化、消防団員の不足、防災マニュアルが不備な防災組織が少なくないことなど、多くの課題がある
- ・ 人口減少や高齢化等の影響から消防団員が不足しており、消防団の統合が進んでいるが、守備範囲が広がってしまい、いざという場合に対応できるか心配
- ・ 防災活動従事者の高齢化が進んでおり、また、他活動と兼務している住民が多く、このような状況・条件下で今後若い世代への引継ぎが円滑にできるか懸念される
- ・ 防災訓練や備蓄はどの程度行うことが適切なのか、情報や事例がほしい



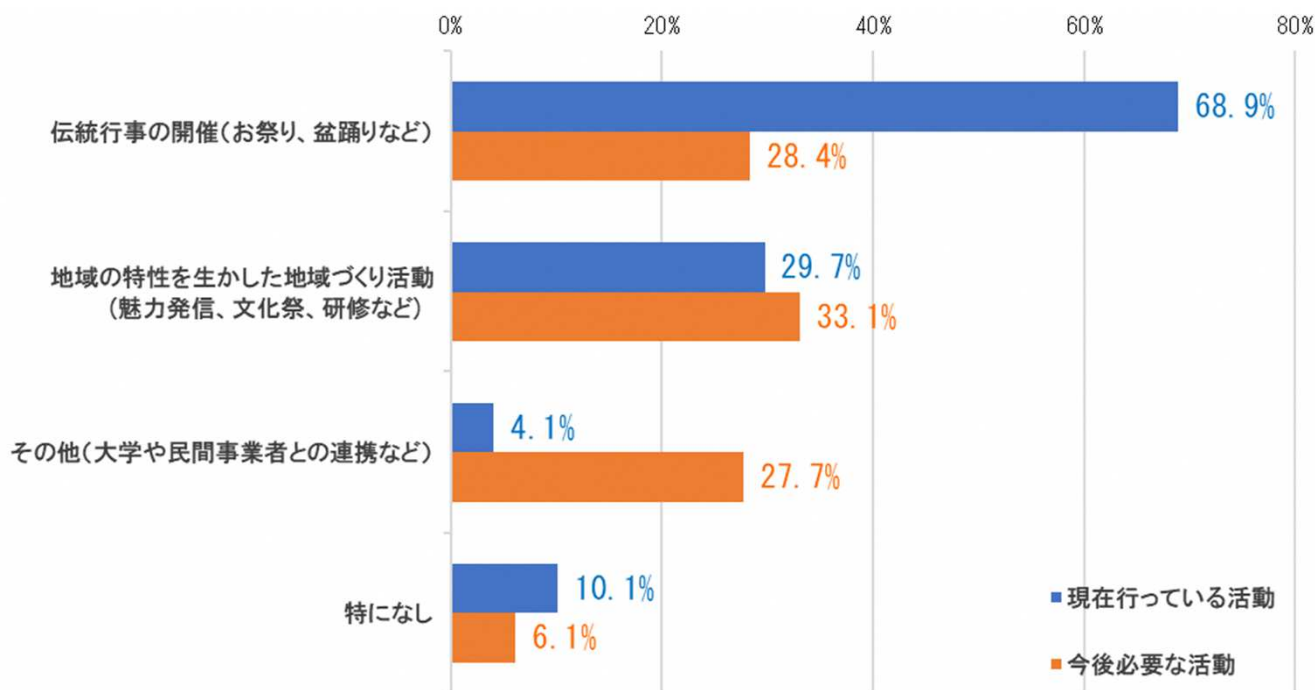
ポイント

- 「災害発生時の助け合い」を今後も継続して必要な活動と認識している人の割合が多い。
- また、現在行われている活動と今後の活動の必要性のギャップが大きいのは、「自主防災活動による訓練や備蓄」や「その他（消防団、登下校の見守りなど）」であり、「高齢化でやりたくてもできない」、「消防団員として活動できる若者がいない」といった意見が寄せられている。

(ウ) 地域文化について

問5-1：あなたの住む地域の「地域文化」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）

(回答数=148)



「地域文化」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「伝統行事の開催（お祭り、盆踊りなど）」……………68.9%
- 2位：「地域の特性を生かした地域づくり活動（魅力発信、文化祭、研修など）」……………29.7%
- 3位：「特になし」……………10.1%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域の特性を生かした地域づくり活動（魅力発信、文化祭、研修など）」……………33.1%
- 2位：「伝統行事の開催（お祭り、盆踊りなど）」……………28.4%
- 3位：「その他（大学や民間事業者との連携など）」……………27.7%

問5-1に寄せられた主な意見（問5-2）

- ・以前は夏と秋に行事や文化祭が行われていたが、高齢化や担い手・参加者不足で現在は実施できていないのが現状であり、地区だけで取組を継続していくことは困難
- ・既存の行事をこなすのが精一杯で、それ以上のことを考える余裕は皆無
- ・多くの地域住民が楽しめる行事とは何か、新しい発想が望まれている
- ・大学生と地域の連携はあるようだが、そうした情報が住民まで聞こえてこない
- ・若者がそもそもいない、いても地域文化に無関心
- ・若年層の地域行事への参加につなげるべく、まずは意見を聞く必要があるのではないか
- ・地域の特性を活かした活動に取り組んでいきたいと考えているし、少子化だからこそ子どもたちに積極的に参加してもらい、後継者・担い手として育成していきたい



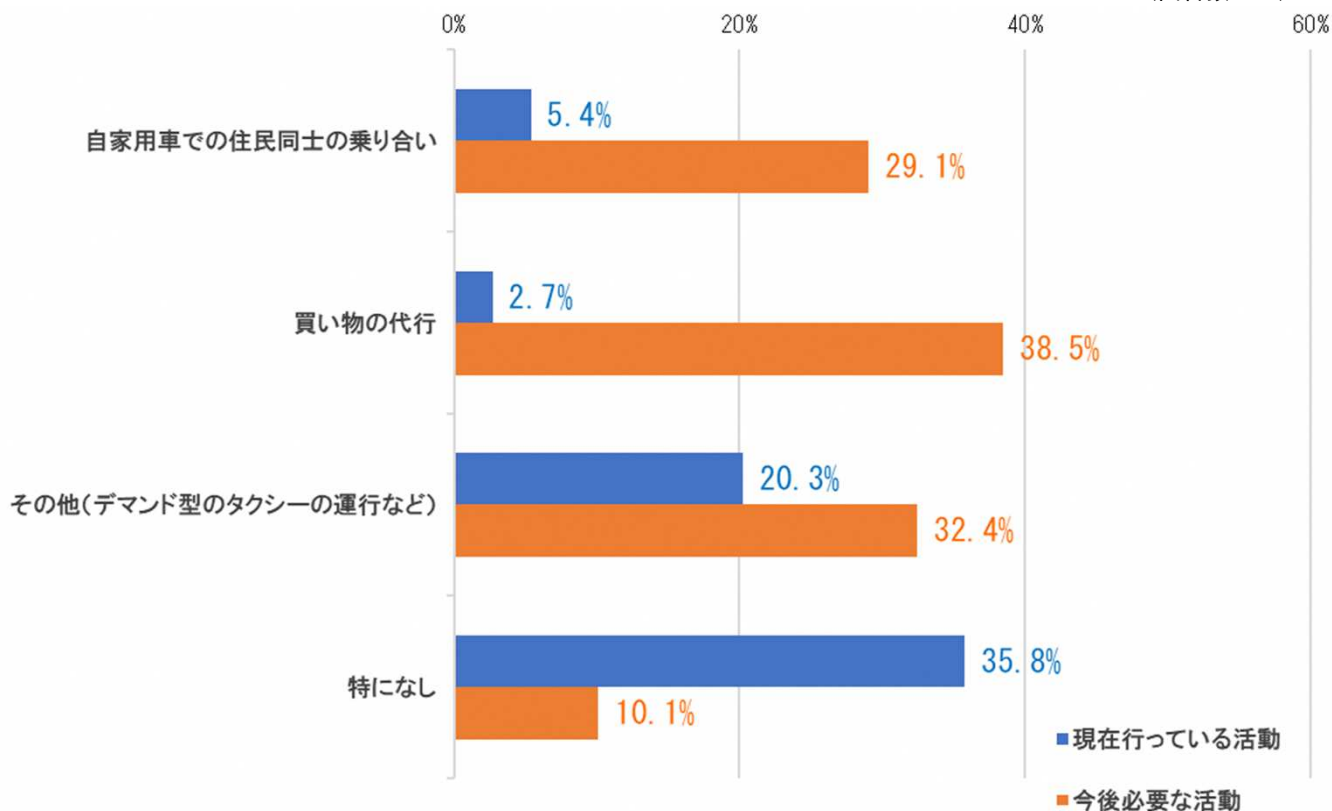
ポイント

- 人口減少・少子高齢化により伝統行事の開催や継続は難しいと考えている人の割合が多い。
- 今後必要な活動としての回答が現在行っている活動の割合を上回っているのは、「地域の特性を生かした地域づくり活動」と「大学や民間事業者との連携」となっている。特に、今後「大学や民間事業者との連携」が必要と考えている人の割合は、現在行っていると回答した人の7倍となっており、全体の約3割程度が大学等と連携した地域づくりをしたいという意向を持っている。

(エ) 医療・福祉について

問6-1：あなたの住む地域の「医療・福祉」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）

(回答数=148)



「医療・福祉」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「特になし」……………35.8%
- 2位：「その他（デマンド型のタクシーの運行など）」……………20.3%
- 3位：「自家用車での住民同士の乗り合い」……………5.4%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「買い物の代行」……………38.5%
- 2位：「その他（デマンド型のタクシーの運行など）」……………32.4%
- 3位：「自家用車での住民同士の乗り合い」……………29.1%

問6-1に寄せられた主な意見（問6-2）

- ・ 団塊世代があと10年もすると買い物難民になるのではないか
- ・ 高齢化による免許返納を考えると買い物代行・デマンドタクシーが必要
- ・ 病院や買い物に行く際の高齢者の交通手段の確保はますます深刻になってきており、自家用車での乗り合いは今後必要となるのかもしれないと思うが、事故を考えるとどうしても不安
- ・ 近隣に日用品を購入できる店は一軒だけであり、10年後もあるのか心配
- ・ 1日に6～7本バスが運行されているが、住民がバスをもっと利用すべきではないか
- ・ いざという時の互助の精神が不足気味とを感じるので、町内会同士の声かけが、いつでも、どこでも出来るようにしていければよいと感じる

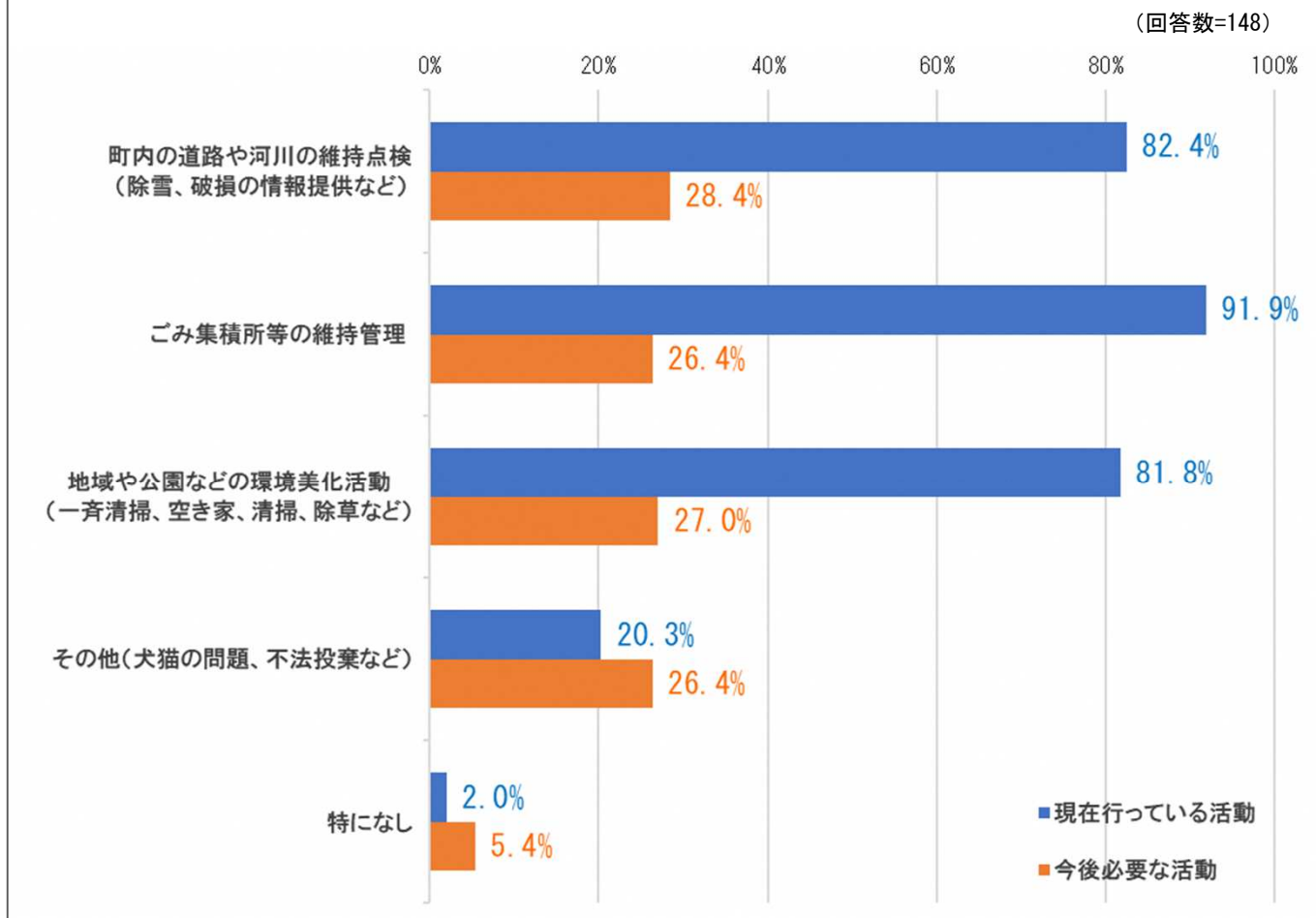


ポイント

- 現在、地域コミュニティが行っている「医療・福祉」の活動は「特になし」という回答が一番多いが、地域の高齢化の進展が想定される中、今後は「買い物の代行」や「自家用車での住民同士の乗り合い」など、高齢者の買い物支援や移動手段の確保の必要性を感じている人の割合が多い。

(オ) 生活環境について

問7-1：あなたの住む地域の「生活環境」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）



「生活環境」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「ごみ集積所等の維持管理」……………91.9%
- 2位：「町内の道路や河川の維持点検（除雪、破損の情報提供など）」……………82.4%
- 3位：「地域や公園などの環境美化活動（一斉清掃、空き家、清掃、除草など）」……………81.8%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「町内の道路や河川の維持点検（除雪、破損の情報提供など）」……………28.4%
- 2位：「地域や公園などの環境美化活動（一斉清掃、空き家、清掃、除草など）」……………27.0%
- 3位：「ごみ集積所等の維持管理」、「その他（犬猫の問題、不法投棄など）」……………26.4%

問 7 - 1 に寄せられた主な意見（問 7 - 2）

- ・環境美化活動には地区住民が参加しているが、高齢化等により近い将来は参加者の減少が予測されるため、今後は生活環境の整備維持は公的機関に頼らざるを得なくなるのではないかな
- ・公園の草刈りを毎年3回実施しているが、広すぎて町内会だけでの対応が大変なので、公的に草刈りを実施しても良いのではないかな
- ・地域に感心を持ってくれる若い世代が少なく、誰かが地区のことをやってくれるだろうと他人任せに考えているのではないかなと感じ、今後は心配
- ・年3回、クリーン活動として地域や公園の清掃・草取りを行っているが、参加する世帯・不参加の世帯が固定化している

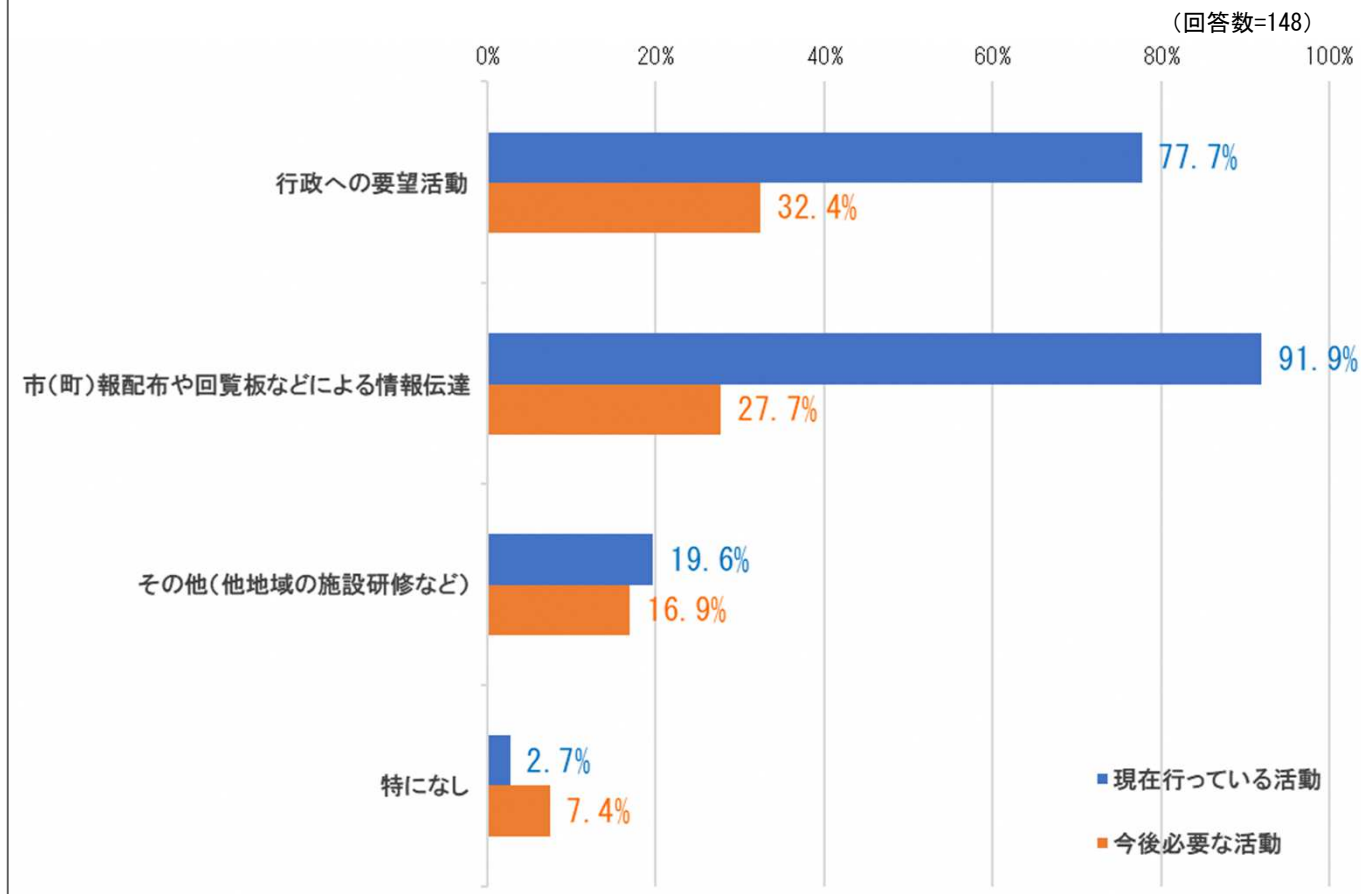


ポイント

- 「ごみ集積所等の維持管理」、「町内の道路や河川の維持点検（除雪、破損の情報提供など）」、「地域や公園などの環境美化活動（一斉清掃、空き家、清掃、除草など）」は現在行っている活動として8～9割の回答があったが、人口減少や高齢化などを背景として、今後も必要な活動であると考えている人の割合は約3分の1にとどまる。

(カ) 行政・情報について

問8-1：あなたの住む地域の「行政・情報」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）



「行政・情報」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「市(町)報配布や回覧板などによる情報伝達」……………91.9%
- 2位：「行政への要望活動」……………77.7%
- 3位：「その他(他地域の施設研修など)」……………19.6%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「行政への要望活動」……………32.4%
- 2位：「市(町)報配布や回覧板などによる情報伝達」……………27.7%
- 3位：「その他(他地域の施設研修など)」……………16.9%

問 8 - 1 に寄せられた主な意見（問 8 - 2）

- ・自治体から地域住民に対する情報提供が紙ベースの配布物である場合が多いが、インターネットやスマートフォンも普及していると思われるので、それらで閲覧したり、紙でなければならない方にのみ配布したりするなど、情報提供方法を工夫・検討しても良いのではないか
- ・一人暮らしの高齢者やハンディキャップのある方は情報入手し難い面があるのではないか
- ・他の自治体における要望活動の取組状況や行政情報の提供に係る取組事例を知りたい
- ・行政への要望は、地区の会長会での集約を経て行っている
- ・市長及び市議との意見交換会へ参加しているし、県への要望も行っているところであり、今後も継続することが大切と考える



ポイント

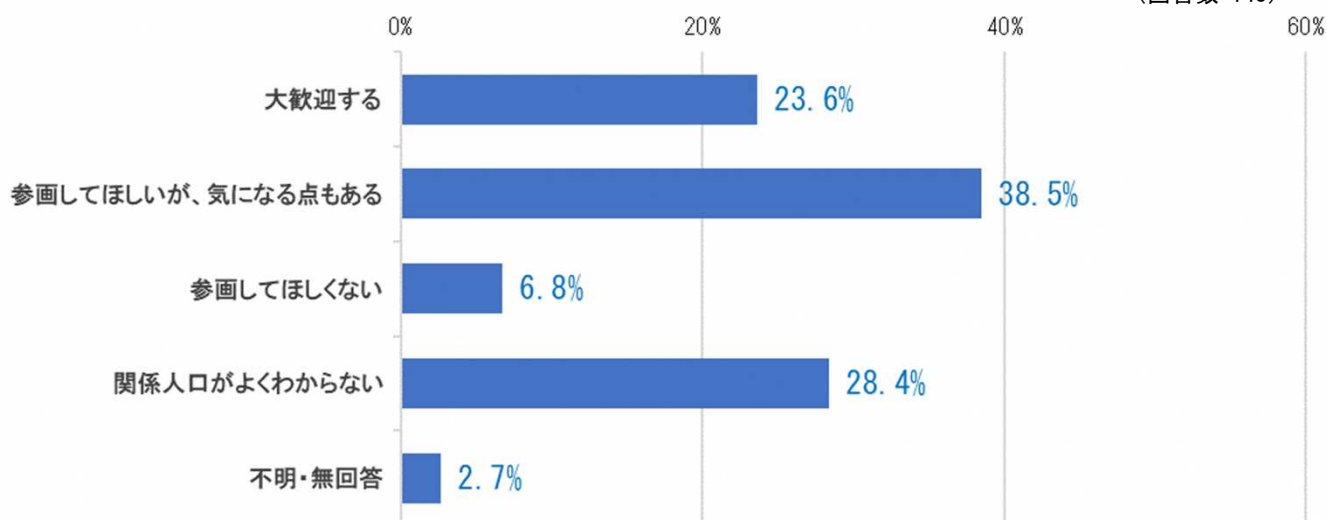
- 現在、9割以上が行っている「市（町）報配布や回覧板などによる情報伝達」は、現状のやり方では情報伝達が困難な人がいることや役員の負担が大きいこと、スマートフォンの普及などにより、今後必要な活動と考える人の割合は全体の3割以下にとどまる。
- 「行政への要望活動」は現在行っている活動として約8割の回答があり、自治体によっては市長・市議会議員との意見交換が毎年行われていたり、地区の会長が要望を集約して行政に伝える地域もあるが、今後必要な活動と考えている人の割合は3割程度にとどまる。

ウ 「関係人口」と地域コミュニティについて

(ア) 関係人口が地域コミュニティに参画することについて

問9-1：関係人口（県外在住の個人や地域活動に協力しているボランティア団体やNPO・企業等）があなたの地域の活動運営に主体的、継続的に参画することについて、どう思いますか。（〇はひとつ）

(回答数=148)



「関係人口が地域コミュニティに参画すること」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「参画してほしいが、気になる点もある」……38.5%
- 2位：「関係人口がよくわからない」……28.4%
- 3位：「大歓迎する」……23.6%

問9-1に寄せられた主な意見（問9-2）

- ・ 県外の方や他の団体者から地域に入ってもらえれば、町に活気が生まれたり、新たな知恵や方向性等が見えてくる可能性が考えられるし、地域住民自身やそれ以外の方の興味関心を引くような地域の魅力発掘につながるのではないか
- ・ 長年の活動の中で地域活動が変わり映えしない状態になっていたり、高齢化の進展により活動が縮小しつつある中、地域が元気を取り戻すためには他の地域の方の参加が必要ではないか
- ・ 自分としては関係人口に参画してほしいが、参画してほしくないと考える住民もいると思われ、温度差があるのではないか

- ・関係人口の参画は良いとは思いますが、地域のことをきちんと理解してくれるか、地域住民と理解し合えるか、関係人口との事前打ち合わせが大変になるのではないかと、地域に押し付けがあるのではないかと等々、心配事や課題が多い気がする
- ・関係人口という内容を理解している人が少ないと思われるので、まずは若い人達の意見を聞いたり、住民に十分話をして、受け入れ体制ができれば良いが…
- ・地域の人口減少により自治会の存続が困難になってくると思うが、関係人口を受け入れる地域側の体制がとれない
- ・何年か後には当地区だけで自治会が成り立たなくなり、近隣地区と合同で自治会活動を行うことになるのではないかと考えているが、関係人口が参画しても定住者が増えないことには、結果的に地区の存続が難しくなる
- ・人口減少や共稼ぎが増えているので、外部人材が必要な時代になってきていると感じているが、地域と外部人材とのマッチングは信頼できる行政等をお願いしたい

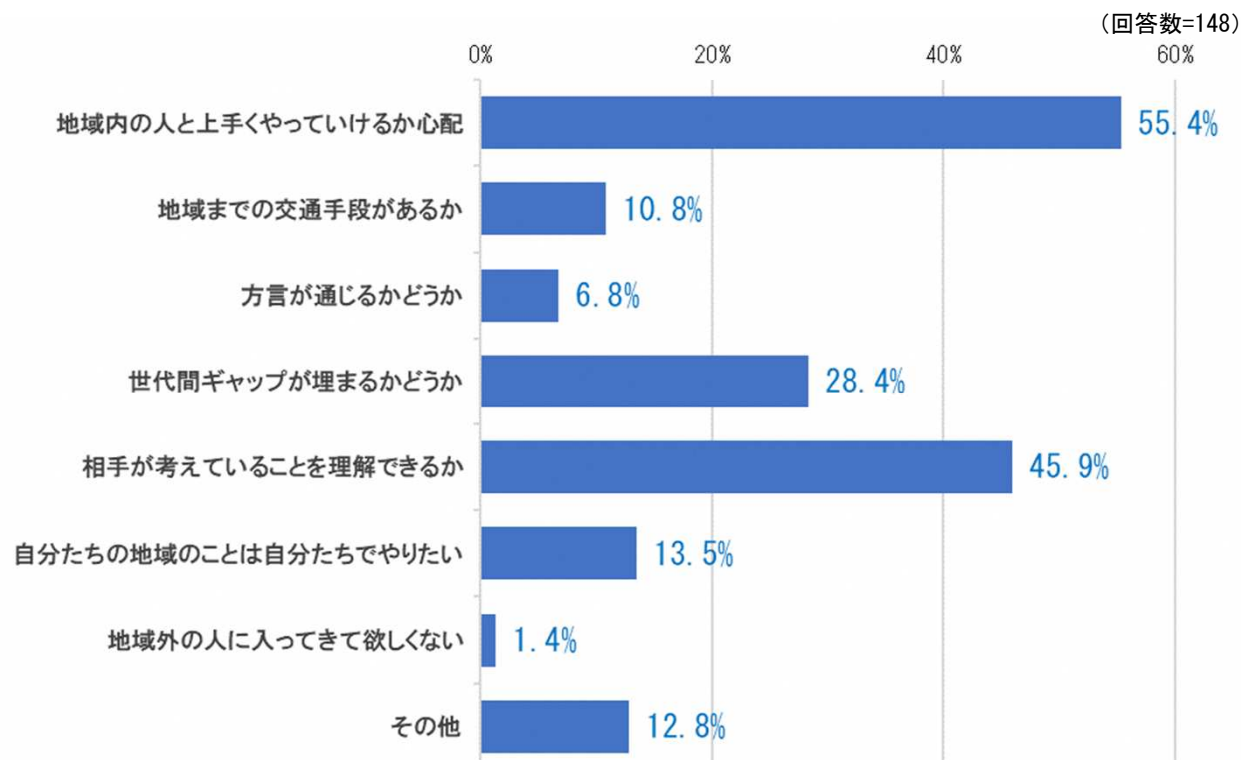


ポイント

- 関係人口が地域の活動に参画することを「大歓迎する」、「参画してほしいが、気になる点もある」と答えた人の割合は6割を超え、地域に地域外の人に関わることに肯定的な人の割合は半数を超えている。
- 一方で、「参画してほしいが、気になる点もある」、「関係人口がよくわからない」と答えた人の割合は約7割にものぼり、実際に関係人口が地域活動に参画するためには、関係人口の考え方や関係人口への関わり方についての理解促進が必要と考えられる。

(イ) 関係人口が地域で活動する際の心配ごとなどについて

問9-3：関係人口があなたの地域で活動する際の「心配ごと」「懸念事項」はありますか？あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○はいくつでも）



「関係人口が地域で活動する際の心配ごとなど」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域内の人と上手くやっていけるか心配」……………55.4%
- 2位：「相手が考えていることを理解できるか」……………45.9%
- 3位：「世代間ギャップが埋まるかどうか」……………28.4%

「その他」では、「地域住民に寄り添った対応をしてもらえるのか」や「知らない人が地域に入ってきて来て物事がうまくいくのか」などが挙げられた。

問9-3に寄せられた主な意見（問9-4）

- ・関係人口が地域で活動する必要性を感じないし、そもそも子どもたちが他県に出ているのに県外から関係人口が来るとは思えない
- ・地域住民に寄り添った対応をしてもらえるか、知らない人が来て地域住民とうまく物事をやっていくことができるか等不安

- ・役員も多忙で集まることもままならず、他の地域の方と交流する余裕もない
- ・不安はいろいろあるが、まずは、地域側・関係人口側がお互いにていねいに説明し、話を聞くようにすることが大事
- ・地区と外部をつなぐ人材はいずれ必要になると思う
- ・関係人口が地域で活動するというような一過性の対応では効果はあまりないため、居住者の増加が望ましい

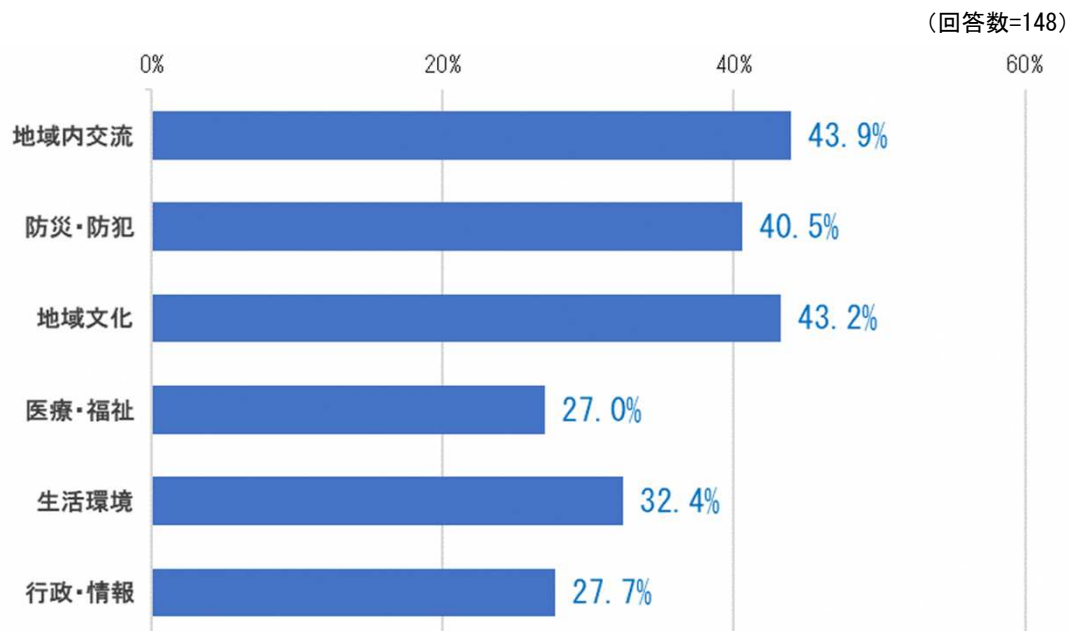


ポイント

- 全体の1割強が「自分たちの地域のことは自分たちでやりたい」と地域の主体性を重視し、関係人口が地域で活動することを求めている。また、そもそも「地域外の人に入ってきて欲しくない」と答えた人もわずかだがいる。
- 関係人口が地域活動に参画するにあたっては、「関係人口の考えていることを理解できるか」、「関係人口が地域内の人と上手くやっていけるか」、「地域に対して関係人口が意見を押し付けることをしないか」、「地域内の人と関係人口の相互理解ができるか」といったコミュニケーションの問題について懸念を感じている人の割合が多い。
- 多忙な役員に合わせた柔軟な対応や、地域と関係人口のやりとりを住民任せにしない“つなぐ人材”の発掘など、一過性ではない継続的な取組みが求められる。

(ウ) 関係人口の力によって解決できそうな地域の課題について

問10：あなたの住む地域の課題について、関係人口の力によって解決できそうなものはありますか。



「関係人口の力によって解決できそうな地域の課題」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域内交流」……………43.9%
- 2位：「地域文化」……………43.2%
- 3位：「防災・防犯」……………40.5%

関係人口の力によって解決できそうな地域の課題

～アンケートに寄せられた主な意見～

地域内交流

- ・ 除雪や居場所づくりなどの高齢者や子育て世代への支援、参加
- ・ 交流の場の企画や実施に向けた協力、交流への参加
- ・ 若年層が興味を示すような地域行事の企画や実施に向けた協力、行事への参加

防災・防犯

- ・ 防災活動や詐欺被害防止に向けた企画や指導
- ・ 防災訓練や備蓄などの他の地域・自治体における取組に係る情報提供

地域文化

- ・ 伝統行事や祭りの開催への協力、参加
- ・ 新しい行事・祭り等の企画や実施に向けた協力、参加

医療・福祉

- ・ 高齢者に対する通院・買い物支援への協力、参加
- ・ 高齢者一人世帯への見守り・関わりへの協力、参加

生活環境

- ・ 公園等の草刈や除草作業への協力、参加
- ・ 道路や河川清掃への協力、参加

行政・情報

- ・ 紙による情報提供やホームページを活用した情報提供への協力、サポート
- ・ 空き家の有効活用や重要文化財の維持・管理に係る協力、参加



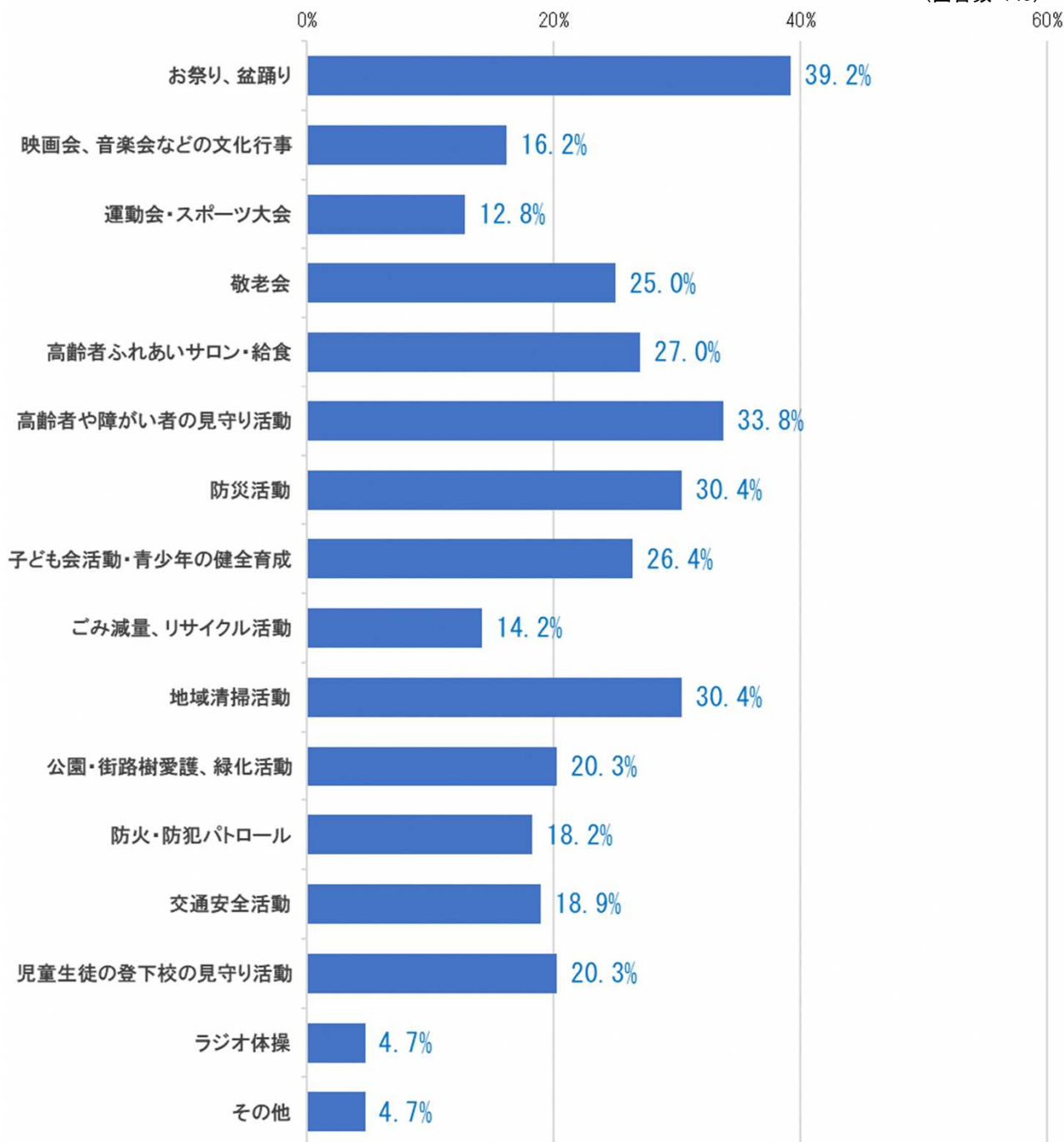
ポイント

- どの分野でも、関係人口の力によって解決できそうな地域の課題はあるが、特に高齢世帯・子育て世帯のサポートや交流、住民と連携した新たな取組や情報発信、お祭りなどの行事への企画や参加などにおいて、関係人口が関わる余地があると考える人の割合が多い。

(エ) 関係人口に参画してほしい地域活動について

問11：関係人口が主体的、継続的に参画してほしい地域活動があれば教えてください。
(〇はいくつでも)

(回答数=148)



「関係人口に参画してほしい地域活動」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

1位：「お祭り、盆踊り」……………39.2%

- 2位 : 「高齢者や障がい者の見守り活動」 ……33.8%
3位 : 「防災活動」、「地域清掃活動」 ……30.4%
5位 : 「高齢者ふれあいサロン・給食」 ……27.0%
「その他」では、「除雪」などが挙げられた。



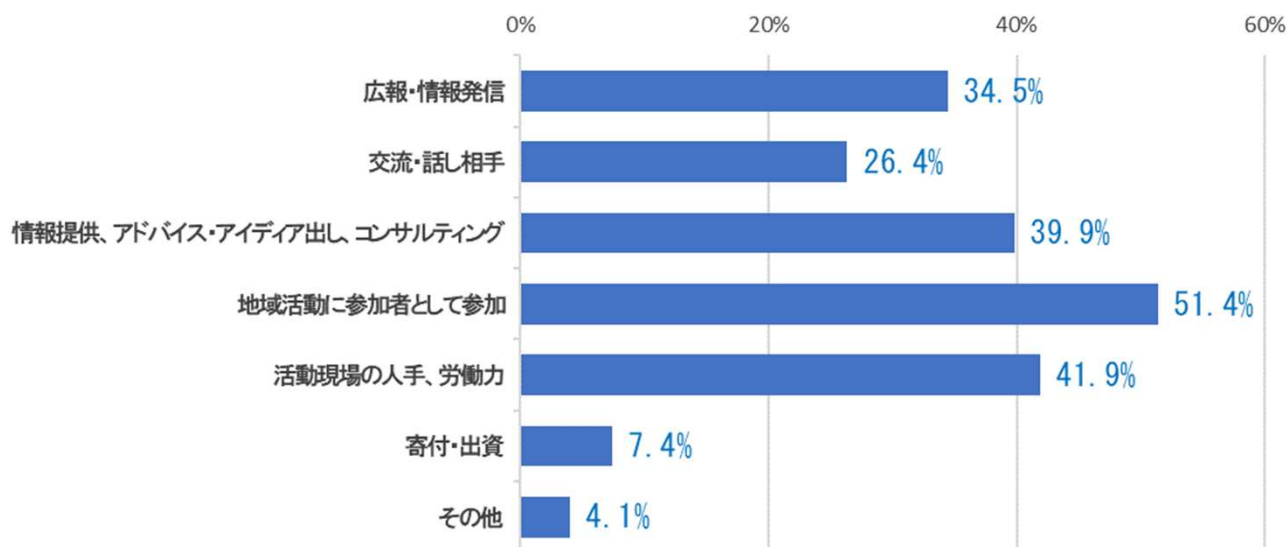
ポイント

- 「お祭り、盆踊り」や「高齢者や障がい者の見守り活動」、「防災活動」及び「地域清掃活動」などが回答の多い項目となっており、関係人口が参画するイメージが湧きやすい順番と言えるのではないか。

(オ) 地域活動の持続・活発化に寄与する地域外の方の活動内容

問12：地域外の方がどのような形で参画すれば、地域活動が持続・活発化と思いますか。（〇はいくつでも）

(回答数=148)



「地域活動の持続・活発化に寄与する地域外の方の活動内容」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域活動に参加者として参加」……………51.4%
- 2位：「活動現場の人手、労働力」……………41.9%
- 3位：「情報提供、アドバイス・アイデア出し、コンサルティング」………39.9%

「その他」では、「除雪」などが挙げられた。



ポイント

- 半数を超える地域コミュニティの代表者が関係人口から地域活動に参加者として参画してほしいと考えている。
- また、「一緒に活動の一部を担ってもらいたい」、「意見が欲しい」、「情報発信に携わって欲しい」などのニーズがそれぞれ約3～4割程度ある。

エ まとめ

【地域コミュニティの現状】

- 多くの地域において、高齢化による参加者の減少や固定化などにより地域コミュニティの運営が難しい状況にある。
- 人口減少により10年後、20年後の地域の将来像が見えないといった意見もあり、今後の地域コミュニティの活動をどのようにしていけばよいのかを模索したり、不安を感じている。

《背景・要因》

- ・ 新型コロナの影響により、約3年間活動ができなかったことから、地域活動の復活や継続が困難な状況に直面している。
- ・ 役員の担い手不足や住民の高齢化に加え、共働き世帯の増加なども要因の一つになっている。働き続ける高齢者の増加等も背景に、地域住民は日々の生活が多忙であり、地域活動に参加できないという状況も伺える。

【関係人口に対する地域のマインド】

- 地域では今後の活動の在り方を模索しており、地域が持続的に機能していくためには、地域が個々に考えて活動するだけでは限界があると感じている。
- 地域活動に関係人口が参画することについては、「関係人口とは何かわからない」、「歓迎するが住民との相互理解が図れるか」等の不安を抱いている。
- 関係人口に期待することとしては、祭りなどの行事への参加や若い人たちとの情報交換・人的交流を望んでいる人も多く、地域側のマインドは“閉じていない”ということが推察される。